

ファースト・ステップ 1

神はどんな方？



考えましょう：誰かが「神」について話しているのを聞いたことがありますか？どんな内容でしたか？

世の中には「神」について多くの考えがあります。聖書は「神様がご自身を明らかにした書物」なので、聖書が「神」の事をどのように教えているか見てみましょう。

神は「唯一無二」である

他の宗教はたくさんの神が存在すると教えますが、聖書は唯一真（まこと）の神がおられるだけだと教えています。



第一コリント8章6節

父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。

聖書はこの唯一無二の神がすべての創造主だと教えています。



創世記1章1節

初めに、神が天と地を創造した。

神は創造主です。すべてのものは神によって造られたものです。

自然界に見られる美しさと複雑さは、創造主なる神の存在を示す否定しがたい証拠です。

- ・地球は太陽からちょうど良い距離にあります。金星は生活するには近すぎます(摂氏462度)。木星は遠すぎます(摂氏マイナス145度)。
- ・地球の傾斜(23.5度)は季節や気持ちの良い天気を作り出すのに完璧です。
- ・地球は完璧な大きさです。地球が今より小さいと、酸素が逃げてしまいます(火星)。今より大きいと、毒性のあるガスが溜まっていきます(木星)
- ・月は、地球の傾斜と海の生物に欠かせない潮流を保つのに完璧な大きさです。

これらは偶然に起こった出来事なのでしょうか？これらの事実の正確さやデザインは、それらが偶発的に起きたことではなく、デザイナー（設計士）によって作られたという証拠です。



考えましょう：植物の種とコンピューターのどちらがより複雑ですか？

答えに驚かれるかもしれませんが、それは植物の種の方です。もちろん、きわめて小さな回路と、驚くほどの量のデータを処理するその能力が示すコンピューターの複雑さには感銘を覚えます。しかし、コンピューターを地面に落としたりどうなるでしょうか？もし踏みつけたなら、壊れてしまいます。雨が当たるとどうなるでしょうか？もちろん壊れます。対照的に、植物の種はどうでしょう？種が地面に落ち、雨が降ると、それは育ち始めます。人間はコンピューターを作ることは出来ませんが、植物の種を作ることは出来ません。種は、神によって目的を持って創造されました一花を咲かせ実を結び、さらに多くの種をつくる木になるために。

神は聖である

聖書は神が「聖」であると教えています。これは神が聖別されており、ご自身を特別なカテゴリー（範疇）に置かれていることを意味します。神は全く純粹で完全です。神には被造物が持つ欠点、汚点、誤りや弱点などが全くありません。



イザヤ書6章3節

互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」

聖書全体を通して、神様の臨在に遭遇した人たちは劇的に変えられています。イザヤ書の中で、預言者イザヤは神の臨在の中にいた経験を語っています。神の聖さを経験した時、彼がどのように反応したか見てみましょう。



イザヤ書6章4～5節

その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」

神は偉大である



使徒17章24～25と29節

「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。... そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。」

神様は全てにおいて自立しておられる方です。神は人間の作った宮にはお住みにならないし、人間に世話をしてもらう必要もありません。

神様はすべてを造られました。神様は人間の芸術や想像から生まれたものではありません。むしろ私たちが神様の創造力と想像から生まれたのです。

神様はすべてを保持しておられます。神様は人やすべての被造物に必要なものを供給します。神様は私たちに命を与えます。太陽を燃やし続け、地球を自転させ、私たちの心臓を鼓動させておられます。

神様は永遠で、知恵深く、無限に強いお方です。神様はすべてのことを知っておられ、そして同時にすべての場所におられます。



考えましょう：映画、小説、漫画の中での神の描写と聖書が示す神の描写はどのように異なりますか？

神は善良である



使徒17章26～28節

「神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とお定めになりました。これは、神を求めさせるためであって、もし探し求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である。』と言ったとおりです。」

あなたが気づいているかいないかに関わりなく、神様はいつもあなたのそばにいます。神様はあなたを造っただけではなく、引き続いてあなたを守り、必要な物を与えてくださいます。神様は助けを求める私たちの叫びを聞かれ、救出して下さいます。



詩編145章14～19節

主は倒れる者をみなささえ、かがんでいる者をみな起こされます。すべての目は、あなたを待ち望んでいます。あなたは時にかなって、彼らに食物を与えられます。あなたは御手を開き、すべての生けるものの願いを満たされます。主はご自分のすべての道において正しく、またすべてのみわざにおいて恵み深い。主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くあられる。また主を恐れる者の願いをかなえ、彼らの叫びを聞いて、救われる。

あなたが今までに受け取った良いもの全ては神様から来ています（マタイの福音書5章45節）—太陽、雨、食べ物、水、住む場所、美しい四季の変化、健康、働く活力等。これらすべてのものは、神様が「あなたの心を喜びで満たす」（使徒の働き14章17節）ために与えられるのです。なぜなら神様は善良で親切な方だからです。



考えましょう：最近、あなたが目にしたり、あるいは経験した良いことは何ですか？

神は正しい

唯一真（まこと）の神は、私たちが目にしたり受け取ったりするすべての良いことの源であるので、神は私たちが感謝するに値します。それが真実であるのに、私たちは神に感謝することが出来ていません。もしかしたら、あなたは神の存在を認めることさえせず、神からの賜物を当たり前と思って愚かに生きているのかもしれませんが。あなたの創造主を賛えないということは、聖書が言う「罪」のうちの一つです。私たちの罪は私たちが聖であり罪のない神から遠ざけてしまいます。罪がもたらす結果は神との永遠の別離です。



使徒 17章 30～31 節

神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。

神様は恵み深く、そして辛抱強く私たちの無知を見過ごして来られましたが、今は私たちに神様に立ち返り、私たちの創造主そして養い主として受けるべき当然の感謝と栄誉を神様に捧げるように命じておられます。

神様はこの世をさばかれます。神様はこの世にある全ての悪（病気、うつ、自殺、戦争、虐待、困窮、憎悪、死など）を打ち砕かれます。このことは、もし私たちが神様を敬う人たちの中に入っているならば、嬉しい知らせです。しかし、もし私たちが神様を敬わないならば、神様にさばかれてしまいます。

神は愛しておられる

神様は父親のようにあなたのすべてを知っておられ、無条件にあなたを愛しておられます。神様はあなたに神様ご自身のことを知ってもらい、あなたへの神様の愛を個人的に楽しんでほしいと思っておられます。神様は私たちが愛しておられる故に、私たちが神様と共にいて、神様の目に義とみなされる道を私たちのために作られました。神様はご自分の御子を私たちの救い主として地上に遣わされたのです。



ヨハネ 3章 16～17 節

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

救い主はイエスです。イエスは私たちの不名誉、正しくない行い（罪）の全てを引き受け、そして私たちの罪悪感と恥を取り除くために死なれました。神様は罪と死を打ち負かしイエスを生き返らせました。神様の御前で正しく生き、神様を敬う道は、神様の御子イエスを信じる信仰です。



考えましょう：神が聖で、偉大かつ善良であり、正しく、そして、あなたをとっても愛しているのを学びました。あなたは今、どんな気持ちですか？あなたの人生にそれはどのような意味を持つでしょうか？

次のレッスンの準備として、「ファースト・ステップ：ステップ2」を読んでおきましょう。もし時間があるなら、イエスの人生について「マルコによる福音書」を読み始めてください。